

これで万全!

# SDGs経営・虎の巻

—未来志向のイノベーション構想—

第9回

## 観光業のSDGs経営

経営承継研究会

中小企業診断士 野崎 芳信

### Question

私は、首都圏の観光地で飲食業を営んでいます。コロナ禍もあり減収を与儀なくされましたが、地元の顧客の支えもあり無事乗り切れそうです。地元観光業者間で話す機会も増え、一体となって活動していくべきとの結論になりました。ただ、目標をどう置くべきとの具体論になると、まとまりません。SDGsは、これからの観光業経営の指針となると聞きました。どのように活用したらよいか教えてください。

本号では、サービス産業の観光業をテーマに社会課題解決の目標としてSDGsを考えしていきます。

#### 1 観光分野のSDGs

##### (1) 国連世界観光機関

国連世界観光機関 (UNWTO) とは、国連の15の専門機関の一つ (WTO と同じ位置づけ) として、SDGsにも深く関わっています。

UNWTOの基本目的は、「国際間の理解、平和および繁栄に寄与するため、ならびに性、言語または宗教による差別なく、すべての者のため、観光を発展させること」としています。

##### (2) 観光分野の位置

UNWTOによれば、観光産業は世界GDPの10%を創出し、世界で働く10人に1人は観光業に携わっています。世界全体の輸出額で、観光業は第3位 (①化学部門、②燃料部門、④自動車、⑤農業) を占めています。

観光分野は、経済において大きな波及効果を持っています。結果としてSDGsへの影響力は大きく、成長し続けています。だからこそ、社会的責任も大きく、当事者である観光従事者は、社会的課題の解決に向けて行動を起こすことが求められています。

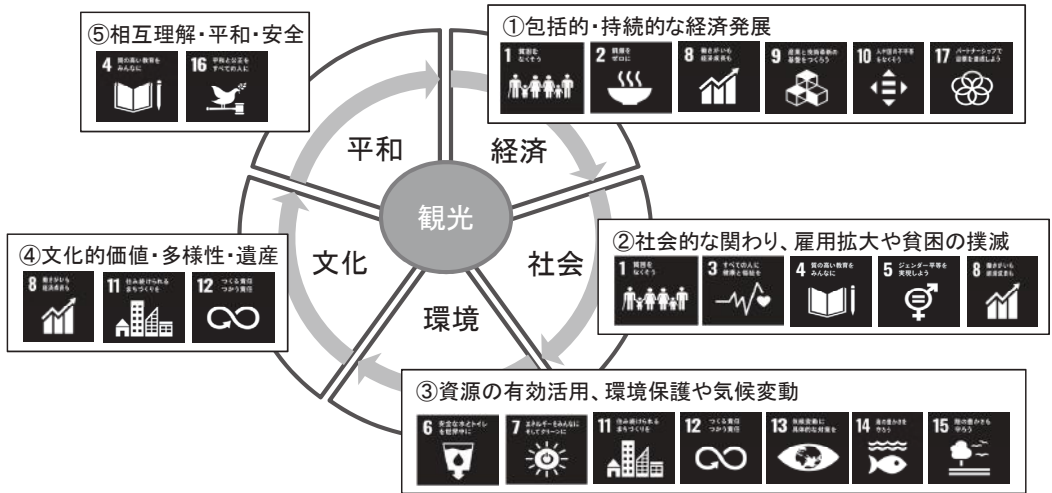
##### (3) 持続可能な観光

UNWTOによる持続可能な観光の定義は、「訪問客、業界、環境、受け入れ地域の需要に適合しつつ、現在と未来の経済、社会、環境への影響に十分配慮した観光」です。環境、経済、地域社会の3つの側面において、適切なバランスが保たれることが、持続可能な観光の実現においては重要になります。

##### (4) 取り組むべき5分野

図表-1に、取り組むべき5分野を示しています。それぞれの分野が、17のゴールのいずれかの要素を備えており、5つの分野で、いずれかの目標を達成する活動が、他の分野へ波及し始め、「持続可能な観光」を継続的

●図表-1 取り組むべき5分野



に構築していくという特性を持つよう組み立てられています。

① 包括的・持続的経済発展

誰もが参加可能で地球全体への経済的便益が持続するツーリズム。

② 社会的な関わり、雇用拡大や貧困の撲滅

雇用創出や貧困削減に貢献するツーリズム。

③ 資源の有効利用、環境保護や気候変動

環境や気候変動に配慮した資源保全・保護を踏まえたツーリズム。

④ 文化的価値・多様性・遺産

伝統や固有性と多様性の両立を認め合う、文化価値を描くツーリズム。

⑤ 相互理解・平和・安全

平和や安全を支える、相互理解に貢献するツーリズム。

認証を受け添付します。

現在、世界の観光産業では、SDGsの動きが加速しています。これから、SDGsの取組が、どの分野で、どの程度進んでいるか、の検証が必要になってきます。

<経緯>

- ・主体：GSTC グローバル・サステイナブルツーリズム協議会
- ・2013年、ミレニアム開発目標に準拠し策定
- ・2020年、SDGs2030アジェンダに伴い改訂

<内容>

- ・認証機関：GSTC
- ・理念：持続可能性
- ・エビデンスの公表・開示
- ・SDGs2030アジェンダの課題への対応明記
- ・定期的見直し
- ・インバウンドの受け皿として極めて有用

**2 世界のSDGsの取組事例**

(1) グローバル・サステイナブル認証

●図表-2 認証ロゴマーク



(2) 責任ある旅行サービス提供

プラスチック製品削減、気候変動への取組、野性生物保護への取組などのSDGs視点でツアー商品を組み立て、表示、改善していくことが求められます。

### 3 日本の観光業の市場

#### (1) 日本の国内総生産

2020年の日本の名目 GDP (国内総生産) は、538兆円で、2019年の553兆円の3.8%減に留まり、一定の数字を維持しました。

内訳は図表-3のとおりで、圧倒的に個人消費に依存しています。SDGsの実現には、個人のSDGs認識の広がりが必要な要因になります。

●図表-3 日本の名目 GDP の内訳

項目	2020年	2019年
個人消費	53%	55%
政府支出	21%	20%
民間設備投資	16%	16%
公共投資	6%	5%
個人住宅地	4%	4%

#### (2) 日本の観光業の市場規模

観光庁の「旅行・観光業消費動向調査」によりますと、2020年の日本国内旅行消費額は11兆円(コロナ前の前年27.9兆円)となっています。インバウンドは、0.7兆円(前年4.8兆円)で、日本人の旅行消費の大きさを示しています。

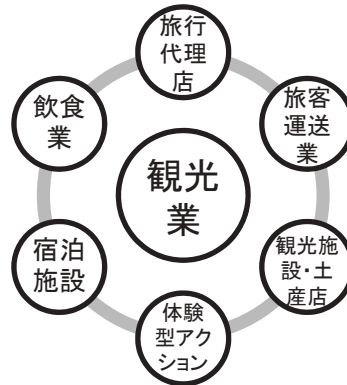
### 4 観光業の構成と課題と解決策

#### (1) 構成業種

日本生産性本部刊行の「レジャー白書2020」では、余暇市場の中で観光業を構成する代表的業種は以下のとおりです。観光客と観光地情報の橋渡しをする旅行代理店、移動手段を提供する旅客運送業、観光施設・土産店、体験を提供するアクティビティ、泊まる楽しみを提供する宿泊施設、観光地の食の楽しみを提供する飲食業です。

観光庁は、「日本版持続可能な観光ガイドライン」(JSTS-D)を2020年6月に指標として提示しました。このガイドラインは国際基

●図表-4 観光業を構成する業種



準 GSTS-D に準拠し、日本の特性に合わせたものです。国際基準とは異なり、自治体や地域目線の内容であり、この連載では使用しません。

ここでは、SDGsの課題・解決方法を、自社の活動内容に紐づける過程を示していきます。各々が、自社・業界のSWOT分析結果と、17のゴールと169のターゲットが掲載された一覧表を活用すると、整理しやすくなります。以下、ターゲットの記載内容を選択例示しています。個別企業ではこの手法で課題を発見していきます。

#### (2) 観光地の飲食業の課題

観光客は、観光地(地域)の個性ある食を楽しみます。

- ・全国各地の独特な食は維持してきたが、家族の在り方の変化で多様性が失われつつある。

⇒ゴール14: 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する

- ・全国各地の農地・山林が過疎化により荒廃の危機にあり、背景の原風景が失われている。

⇒ゴール15: 陸域の生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進

#### (3) 地域内連携の課題

行政・地域企業・住民を含めた地域内連携が、客観的でうまく継続していければ、文化は持続し、観光資源はより高みに移行します。

- ・農地の水管理をはじめとして、中山間地の社会インフラが崩れつつある。

⇒ゴール6：農地・住宅地等あらゆるレベルでの統合水資源管理を実施する

- ・地域でエネルギー自立ができていない。

⇒ゴール7：持続可能な近代的エネルギー（小水力発電）へのアクセスを確保する。

- ・地形の特徴に合わない公共工事が行われ、自然災害に弱くなっている。

⇒ゴール13：気候変動およびその影響を軽減する。

- ・国の財政悪化から地域予算が削減される。

⇒ゴール17：地域内のパートナーシップを活性化し、補助金頼みを卒業する。

## 5 問題の解決策、見えてくるもの

これまでの分析から、観光業の課題は、地域共同体とパートナーを組んで解決していくべきものであることが分かります。最新の技術動向から、解決策も構想できる。課題を個別撃破していくのではなく、SDGs2030アジェンダで整理し、地域の2030年への目標を定めることで、解決の端緒が開かれます。

成毛眞「2040年の未来予測」による、「新しいテクノロジーは、ありがたみが分かった段階ではその技術の陳腐化が進んでいる」ことに注意しておく必要があります。

### ●図表－5 2040年の未来予測（日経 BP）



### (1) 2030年の未来技術予測

今後想定される技術は、以下のようなものが挙げられる。

- ・自動運転自動車、空飛ぶ自動車実用化
- ・6G 通信速度の実用化、双方向性の深化
- ・省電力の加速化、エネルギー源の変革
- ・VR（拡張現実）が活用可能に

### (2) それを使った新しい世界を構想する

- ・観光情報の一般化・共有化の進展
    - 旅行代理店のチラシをデジタル化する
  - ・送迎バスの無人化
    - 安全な輸送手段を開発する
  - ・エネルギー多消費の人や物の移動削減技術
    - 旅行のコストの増大に伴い、実移動を伴う観光は制約される。富裕層は実移動旅行を増し、一般人はVRで世界各地の旅行を体験できる。オーバーツーリズムは解消し、実旅行の価値も上昇する
  - ・現地実風景の維持
    - 原風景を活用して観光資源を開発する
  - ・VR用コンテンツ制作産業創生
    - 取材は実人間かロボットがする
  - ・自然遺産・文化遺産の存在そのもの
    - VRコンテンツをアーカイブ化する
- (3) SDGsの指標で取組の優先順位を決め、行動計画をたてる
- ・SDGsへの取組、行動計画策定等については、各地の地元には根をはった、行動力のある若手が中心となって活動していく事柄です。地域の観光業界は、リモートワークで地方に移住してきた人材を得るチャンスです。
  - ・各地で活躍する「地域作り協力隊」のメンバーには、志の高い人材が集まっています。

## 6 新たな観光の事業モデルは、SDGs基準のグリーンツーリズム

### (1) グリーンツーリズムの定義

「農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動」です。

## (2) グリーンツーリズムの概念

「農村と都市が相互に補完しあい、共生していくことにより、国土の均衡ある発展を目指すことを基本とし、農村地域における開かれた美しい村づくりに向けた意欲と、都市住民の側に芽生えた新たな形での余暇利用や農村空間への想いとの間を橋を架けるもの」です。

## (3) SDGs 基準のグリーンツーリズム

地域組織の連携が、実現の鍵になります。

### ① 旅行代理店

パンフレットの電子化を進め、紙・インク資源の浪費を削減する。

### ② 旅客運送業

着地までは広域の電車、観光地内では地元交通会社のオンデマンド・小型自動運転電気自動車で、車両動線を単純化、燃料消費を削減する。

### ③ 観光施設

日本の農山漁村は地域全体が観光施設となる。日本農業遺産、世界農業遺産は、即利用可能となる。合わせて自然と協調できる工夫を施した施設を建設する。

### ④ 体験型アクション

観光施設を回遊する手段を、ツアーに仕立てる。散策、ランニング、サイクリングは、地元スポーツクラブの人材・資材を活用すれば、雇用拡大や地域経済拡大につながる。

### ⑤ 宿泊施設

居住し、農業を営んでいる農家の、古民家滞在はグリーンツーリズムの楽しみの極致になります。受け入れ側の体制整備(基本教育)が重要なポイントとなる。

提供する食事は、家の畑でその日採ったもの・地元食材を、地元料理として提供、食の廃棄を回避する。自炊も積極的に推奨する。

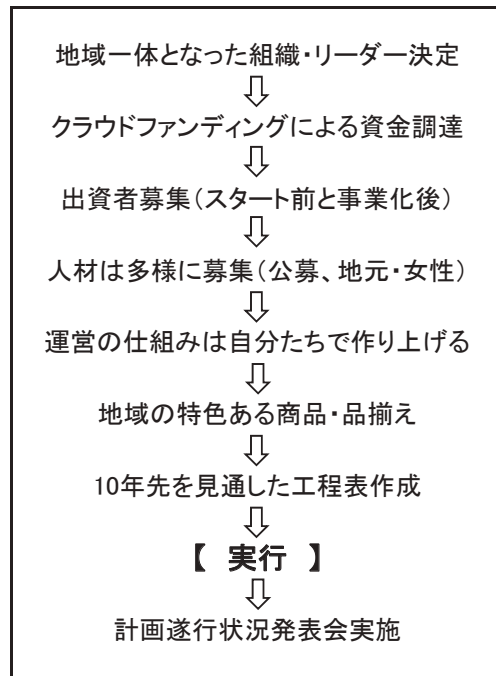
## ⑥ 飲食店

連泊してもらうには、多様な食の提供ができるかが重要。地域の考え方は、市内・県内に拘らず、県またぎは多様性発見につながる。

## (4) SDGs の基準で具体的な手順を詰める

前述のSDGs基準を踏まえ、グリーンツーリズム事業を組み立てていきます。

### ●図表-6 SDGs で細部を作り上げる手順例



観光地は再構築のチャンスです。SDGs視点で地域連携の組織づくりから参画し、リーダーシップを取り行動してください。

### 成功のポイント!

- ① すべての人の国際間の理解に観光が必要
- ② 世界の観光産業でSDGsの動きが加速
- ③ 17ゴールと169ターゲットが指標となる